

血と涙以外の記憶すべき歴史

北京師範大学学生代表

見学日時：2016年12月5日（月） 12:00-13:30

見学場所：日比谷松本楼

見学概要

正午、私たちは日比谷公園内の松本楼を訪れ、そこで食事となった。そして小坂文乃女史による日中両国の友好関係に大きな貢献をした孫中山氏と梅屋庄吉氏の故事を拝聴した。

日比谷公園は日本で最初の西洋式公園であり、とても美しい場所である。

松本楼に向かう道すがら、黄金色の高くそびえたつ沢山の銀杏の木を見かけた。銀杏の葉が風になびき、地上の銀杏の葉はとうに厚く重なっていた。その景色は夢の世界のような美しさで、今でも忘れられない。

小道の脇には写生をしている人もいて、一種の静まり返った美しさを感じられた。ただ写真を撮らなかったことがとても悔やまれる。

松本楼は100年以上の歴史を持つ日本で最初の洋風レストランで、入口にはこのようなピアノが置かれている。



これは梅屋庄吉氏が娘のために購入したピアノである。孫文(孫中山)氏が帰国当時、その妻である宋慶齡女史が梅屋氏の屋敷内に寄宿していた。宋慶齡女史はとても音楽が好きで、いつもこのピアノを弾いていた。その後梅屋庄吉氏は孫文夫妻と松本楼との縁を記念し、このピアノを松本楼に寄贈した。

松本楼を訪れた時間が丁度食事時ということで、私たちはまず松本楼が私たちのため心を込めて準備した美味しい料理に舌鼓を打った。これらの料理は見た目が洗練されているだけでなく、味も非常に良かった。

食事の後は、小坂文乃女史から梅屋庄吉氏と孫文氏の真摯な友情についての紹介があった。

小坂女史の素晴らしい解説から、私たちは梅屋庄吉氏がどのように孫文氏とめぐり合い、またいかにして無私の精神で私財を孫文氏



の革命運動への支援に投じたのかを知り、歴史的偉人の深い友情と人間的魅力を感じた。
解説終了後、私たちは松本楼の前で記念写真を撮り、松本楼での見学を無事に終えた。



知っていますか？

孫文氏は日本滞在期間、梅屋庄吉氏の多大なる支援を受けた。この他、孫文氏と宋慶齡女史の婚姻は徳子女史（梅屋庄吉氏の夫人）の仲立ちにより実現した。松本楼 1 階の入口には宋慶齡女史が非常に好みいつも弾いていたピアノが置かれている。梅屋庄吉氏はまた自らの出資により中国における初代のパイロットを育成した。統計によると、梅屋庄吉氏が中国の革命に投じた資産総額は 2 兆円（1300 億元相当）にもなる。

感想

孫文氏と梅屋庄吉氏との友情は日中関係の一つの縮図である。

小坂文乃女史の話によると、孫文氏は香港で梅屋庄吉氏と知り合った後、アジアの人民が一致団結して列強の侵略に対抗し独立を実現すること理想とする梅屋庄吉氏は、孫文氏への無償の資金提供を行った。また松本楼において幾度とパーティーを開き、孫文氏を日本の各界の人物へ引き合わせた。

梅屋庄吉氏はかつて「君は兵を挙げたまえ、我は財を以って支援す」という盟約を結んだ。そして中国における「辛亥革命」の時期、梅屋庄吉氏は飛行機や弾薬など大量の武器を調達した。孫文氏の死去後、梅屋庄吉氏は依然として日中友好関係の維持に努め、孫文氏の銅像 4 体を造り中国へ寄贈した。

上述の事実について私は初めて耳にしたが、とても感銘を受けた。日中の交流史においてこれほど偉大な先駆者がいたこと、そして真に意気投合した闘士の彼らは、私たち両国の若者に模範を示している。現在の国際情勢において、日中関係は尋常ではない困難な局面にあり、私たち若者はこれまで以上に責任を担う必要がある。若者は正に国の未来であり、広い視野と創造力を持ち、そして可能性を握っている。私たちは絶えず意思疎通や交流をし、直に日中両国の実状を見て、誠実に向き合う必要がある。私たちは自らを媒介者とし、真実の情報を周囲へ伝えていかなければならない。一個人の友情はわずかなものであるが、数多くの人々の友情が組み合わさった繋がり、きっと両国のより多くの人々を感動させるであろう。私たちは素晴らしい未来を願っており、また共通の道を歩んでいくのに、どうして手を携え助け合わないのだろうか？

私たち日中の学生が付き合いを深め、共に遊びまた学び、人生や愛情そして美食について語り合う。私たちは人類で、かつ同じアジア文化圏にあり、沢山の共通認識がある。

松本楼は孫文氏と梅屋庄吉氏との友情の証人であり、日中友好の象徴でもある。松本楼が今後も日中両国の素晴らしい未来を見守っていくことを願っている。

